

第99回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年10月9日(月) 14時～17時

兼題「秋思」

- 川井素山 ○もみ殻の林檎探がしを懐かしむ
新米の湯気にくもれる遺影拭く
積もる秋思湯に沈めけり山の宿
棚経の僧の慈顔や花木槿
- 保井寶正 ○^{みみたぶ}耳朶や秋夕焼に透きとほり

秋^た蘭けて銀座仕立ての見栄を着る
朝顔のあんどん仕立て提げ帰る
ゲーテ読みモーツァルト聴く愁思の夜
- 佐久間喬 ○赤々と霜見るまでの柿すだれ
ひとりごと思はず漏れる秋思かな
ティショット弾道高し翺雲
血圧を計りて今朝のそぞろ寒
- 丸山酔宵子 ○日が落ちて一人塩ふるきぬかつぎ
^{しろがね}白銀の秋刀魚焼く火の華やかに

色変へぬ松も枯れたる歳重ね
赤とんぼ浅間のけむりゆらゆらと
- 菊地崇之 ○身豊か女心に秋思ふ
見聞し自然散策秋思せむ

小春日や^{たぎ}滾る血潮ぞ薄ら呆け
虫の音に乙女心は詩を生む
- 吉田啓悟 ○この秋思みんな年金暮らしです
湯気吹くによき頃となりぬくめ酒
大都会居座る秋の暑さかな
十六夜や剣士整列体育館
- 青木英林 ○吊し柿山里の^{いえ}古家彩れり
名月や雲を戯れ更けゆく夜
立ち並ぶ高压線や秋高し
夕暮れて一人住まいの秋思かな

- 山本草風 ○アスリート覇氣 ^{ほとばし} 迸り秋盛ん
朝目覚め老いとの対話我が秋思
朝寝して朝酒読書秋氣充つ
新米に総菜何を思案かな
- 佐伯兵庫 ○うそ寒や昼のネオンの地下通路
夜ひとりつまみをさがす愁思かな
今年米たきたてをよそう誕生日
秋湿り別れのハグは熱すぎる
- 渡辺鯨波 ○漱石の旧居に落とす愁思かな
美少女のチェロの指先秋の夕
トラウマを一つ癒して秋刀魚焼く
秋の夜はフランス映画みて泣ける
- 澁谷瑠璃 ○彼岸花転生だけを待ち詫びる
^{ディスコ}
DISCOには自転の早い今日の月
^{すうひじゅつ}
数 秘術 数え止まぬは秋思故
^{ぎんなんボーイズ}
銀杏 BOYZ踏まれても声突き抜ける
- 石川智子 ○風吹けば吹かるるままの秋思かな
雲もなき空の広さに秋思かな
照紅葉画にふちどりて車窓かな
老ひたれば山を飾れや照紅葉
- 原 晶如 ○百歳の回転木馬良夜かな
シャンパンの泡に溶けゆく愁思かな
有の実の腕白顔に傷ひとつ
花おしろい夢二の乙女匂ひけり
- 青葉ひかる ○愁思秘め逝きし妹今いずこ
そびえ立つ銀杏落葉に柿ひとつ
赤とんぼ夕焼けの歌父思ふ
里の秋白い馬にまたがって

次回「萩句会」

日時 2017年11月13日(月)14時～17時
場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『ゆず湯、柚湯』一句 当期雑詠三句 計四句